



ロベルト酒井の
**南十字の
空から**

平成 25 年度 ブラジル通信
No. 2 9 月 11 日～9 月 14 日
発行者 豊橋市教育委員会
酒井 憲一
roberto_takato@yahoo.co.jp

パラナ州教育局訪問

9 月 12 日（水）総領事館訪問の後、パラナ州教育局を訪問しました。対応してくださった方が、ホーゼネイデさんの上司であるエゼキエル課長です。課長の部署は、州全体の教育政策の仕事を受け持っており、主にカリキュラムや教員研修に関するものです。

◆ミッション①：市立学校（小 1～小 5）から州立学校（小 6～中 3）への連携支援

エゼキエル課長に、今回の私の訪問についてパラナ州教育局に関するミッションを説明しました。ミッション①は市教育局と州教育局との縦割り行政の壁のため、連携は無理と言われていました。しかし、エゼキエル課長から「実は私も市立から州立への連携がうまくいかず困っている。ぜひ日本の教育のノウハウを教えてほしい。」と言われました。そしてクリチバ市やパラナヴァイ市に話を持ちかけると言ってくださいました。日本でいう「中 1 ギャップ」に悩んでいるとともに、日本の中 1 ギャップ解消の手立てを生かし、支援することで合意しました。



◆ミッション②：2 部制から 1 部制（全日制）実施に向けた教育支援

現在パラナ州には、州立学校が 2100 校あり、そのうち 34 校が 1 部制です。その 34 校は州が指定した実験校であり、来年度増えることはないということでした。これには、教室の数や給食設備というハード面やカリキュラムの問題、教員の勤務時間の問題等があり、なかなか課題解決には至っていないということでした。しかし、1 部制移行を推進したいという考えが強く、日本のノウハウを担当職員に教えてほしいということで合意しました。

◆ミッション③：教員の待遇改善と男性教員の採用増加

ブラジルでは、教員のほとんどが女性です。これは、教員の給与が家族を養うほどの額でないことが大きな理由です。ここで、教員の待遇改善と男性教員増加を要望しましたが、現在の州教育局長が給与を 50%アップし、ブラジル全体でも高い水準だと言われました。現段階では、これ以上の改善は無理だと言われました。あとは、国の政策しかないということです。

ブラジルの年間平均給与（US \$）

- ・医者：10 万ドル
- ・エンジニア：4 万ドル
- ・パラナ州の教員：2.5 万ドル
- ・その他の州の教員：0.6 万ドル

◆ミッション⑥：帰国児童生徒の実態把握のためのアンケートの実施

昨年度、前任の宮本氏によるアンケートをパラナ州で実施しました。しかし、各校の回答が「本校には帰国児童生徒はいません。」などと、無関心な回答で、実態把握には至っていませんでした。

そこで、宮本氏の実績を無にするわけにはいかず、真実の帰国児童生徒の実態を把握するため、州内全校への実施を強く依頼しました。すると、「今までしっかり対応できなくて申し訳なかった。明日、

すぐに全校へ通知します。」という回答を得、さらにその場で、パラナヴァイ市が所属する州の教育事務所（東三事務所のようなところ）に電話し、「アンケートに協力するように！」と仰ってくださいました。さらに、クリチバ市内の市立学校や私立学校協会にもアンケートを依頼すると言ってくれました。

11月末までには、アンケートを集計し結果を教えてくれるとのことでしたので、結果が楽しみであるとともに、その結果をふまえ今後の手立てを考えたいと思います。

★特別ミッション？「避難訓練」

エゼキエル課長から新たな支援要請がありました。

最近クリチバでは、ディスコで火災が起き 200 名以上の尊い若者の命が失われたそうです。そこで、課長は子どもの時から火災時における避難行動を身につけさせようと考え、学校で避難訓練を実施したいということでした。しかし、ブラジルの学校では避難訓練を実施しておらず困っていました。

そこで、日本では年間数回実施していることを教え、そのマニュアルをぜひ欲しいとのことでした。事後報告になりますが、ホージネイデさんが拠点にしている岩田小学校の避難訓練マニュアル（職員会議提案用：火災編）を送ると約束しました。（岩田小学校様。ご協力をお願いします。）

日本では当たり前と思っていることが、ブラジルでは喫緊の課題であることを痛感するとともに、少しでも教育支援できたと感じました。

帰国児童生徒と面談「家庭訪問」



ブルーノ・ヒロシ君とお母さんとの面談

今回の訪問ではパラナ州教育局の配慮で、帰国児童生徒の家庭で面談することになりました。今までは学校を訪問した際に面談していましたが、保護者の考えを聞くことがあまりできませんでした。家庭訪問することによって、子どもの生活環境や保護者の考えを知ることができ、大変有意義でした。

面談を通して感じたことは、ブラジルへの帰国をふまえて、日本滞在時にポ語を日常的に使用する環境を作っている家庭の子どもは、帰国後もスムーズにブラジル社会に受け入れられるということでした。つまり、ブラジル人家庭の保護者の考えが重要ということです。例えば、日本の学校に通わせずブラジル人学校へ通わせたり、日本の学校に通っていても家庭内ではポ語だけにし、インターネットでブラジルの教材を入手したり、それぞれ工夫が見られました。日本でもブラジルでも家庭教育の役割が大切だと実感しました。

□ベルト酒井の「こんな時どうスルー？」

前号の答えは①です。③は、どうしてもバッグを持たなければいけない場合は、たすき掛けの上、バッグを前にして手で抱えるようにしなければいけないでしょう。

②は「貴重品が入っているよ」ということをアピールしているのでよくないです。ただ腹巻のように衣服の下に隠せば OK です。ちなみに私は財布を持たず、お金をポケットやベストなどに分散して持っています。

では、第2問。日本語学校で生徒と懇談した際、日本文化に興味を持っているという学生に「あるもの」を見せて大変喜ばれました。私は何を見せたでしょう？

① 日本のマンガ ② 日本手ぬぐい ③ 日本の紙幣 答えは次号で！

